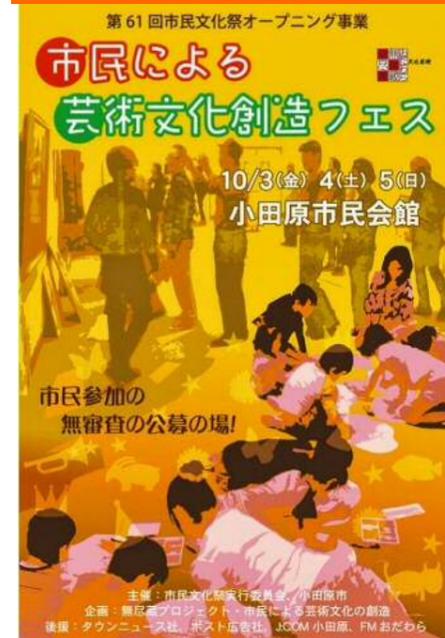


小田原 無尽蔵プロジェクト

活動の記録
平成21年～



新たな
小田原スタイル
への挑戦



平成26年11月18日

小田原市企画部企画政策課

〒250-8555 小田原市荻窪300

TEL. 0465-33-1253

もくじ

無尽蔵プロジェクト全体

2

ウォーキングタウン小田原

6

食の小田原

8

文学のまちづくり

10

ものづくり・デザイン・アート

12

環境（エコ）シティ

14

市民による芸術文化創造

16

小田原ならではの住まいづくり

18

シネマとライブのまち

20

片浦みかんプロジェクト

22

無尽蔵プロジェクト～全体～

このプロジェクトは、「徳」を生かす市政の実践です。「徳」とは、小田原の郷土の偉人、二宮尊徳翁の教えであり、「自分が何かを得るため、手に入れるためだけに行動するのではなく、受けた恩徳にお返しをするために自分の徳を生かして行動する」というものです。

「徳は無尽蔵にある」「荒地は荒地の力で」。つまり「地域の持つ資源を生かしてこそ、地域を立て直せる」という二宮尊徳の「無尽蔵」の教えを由来とすることから、このプロジェクトを「無尽蔵プロジェクト」と名付け、市民の力・地域の力を核とする新しい公共をつくる取組として位置付け、推進してきました。

事業概要

「新しい小田原」の実現に向けた3つの指針の一つである「希望と活力あふれる小田原」について、複数の推進テーマを設定しました。

それぞれを個別のプロジェクトと位置付け、実践の場で活躍している団体（企業等）が多くの担い手と共に事業展開を図ってきました。

目的

市民と行政が一体となり、無尽の英知を持って小田原の持つ特徴と潜在力を引き出し、新たな「小田原スタイル」を確立させることで、地域経済の活性化とまちの活力向上を目指すことです。

実施内容

1. 各分野の実践の場で活躍している団体（企業等）が主となり、プロジェクトを組織しました。
2. プロジェクトでは、二宮尊徳翁の実践的教えに習い、互いの考えをぶつけ合って議論をし、目指すべき目標と達成に向けた企画案のアイデア出しを行いました。
3. その後、お互いが実際にできることを整理し、役割分担をしました。
4. 各団体（企業等）は、自らの役割において取組を実践していただきました。

5. プロジェクトには、市の関係所管課が補佐役として参画しました。
6. 各推進テーマに係る情報共有、意見交換の場として、各推進テーマのコーディネーター、市長、推進アドバイザーらが出席し「連絡調整会議」を開催しました。

活動の狙い

民間団体（企業等）は、自らが蓄積するノウハウや自由な発想を活かした事業を展開する一方で、市は行政にしかできない事業を積極的に行い、側面から支援します。これらが相乗効果を発揮するとき、1+1が10になり、20になります。これが無尽蔵プロジェクトの真の目的であり、「持続可能な市民自治のまち」を作る協働の基盤となります。

活動の成果

1. 様々な担い手の「組み合わせ効果」が生まれました。
2. 民ならではの自由な事業展開を公共による「オーソライズ効果」により後押ししました。
3. 公共資源の活用による立ち上げ支援ができました。
4. 市職員による「つなぎ効果」が生まれました。
5. 活動財源の獲得ができました。

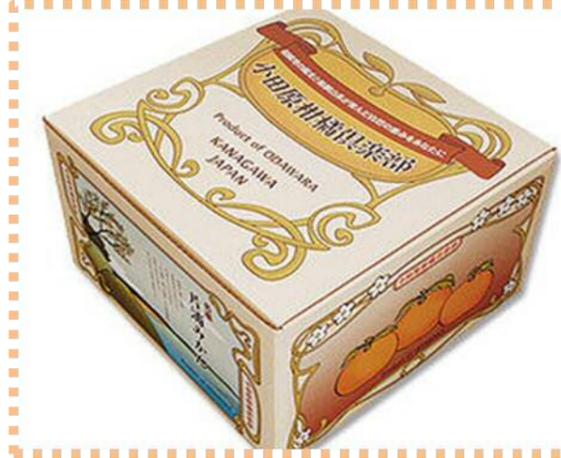
取組の経過

平成22年11月
「片浦みかんプロジェクト」始動

「小田原みかんの価値の再構築」を目標に掲げ、年間を通じ農家の方にとって安定した価格で、みかんをはじめとする柑橘類を流通させることを目指し、活動を開始しました。

平成22年12月
お歳暮みかん販売開始

小田原特産の「片浦みかん」が、初めてお歳暮商戦に参入した。一般のスーパーマーケットでは手に入らない「ミカン本来の甘酸っぱさ」という希少性でブランド化を図る試みの第1弾である。現在まで、毎年完売御礼となっています。



毎年大好評のお歳暮みかん

平成23年4月
片浦レモンサイダー販売開始

片浦地区では、農家さん達が「片浦レモン研究会」を組織し、30年以上の間お互いのノウハウを共有しながら、丹精込めてレモンを栽培し続けています。年に一度しか農薬を散布しない、ノーワックス・防カビ剤不使用の片浦レモンを使用し、地域振興サイダーの販売を開始しました。

平成23年11月
「農援隊」を結成

地元で熱心に農業に励む農家さん達を応援するために、農援隊を結成し、小田原で新鮮な野菜づくりに励む農家さんと、販売を希望される方とのマッチングのお手伝いなどを行っています。

平成23年度には富士山を望む小田原市内の富水・成田地区の田んぼを「みんなの田んぼ」として1年間所有し、農家と一緒に米作り体験を行った。期間中は農家が管理するため、安心して農作業が体験できると好評でした。



片浦産レモンを使用した地域振興サイダーも大人気
平成24年4月9日
「食と地域の『絆』づくり」優良事例に選定

農林水産省は、国民の「いのち」を支える基礎として、「食」を生み出す農林水産業と、その舞台となる農山漁村の活力を再生するため、地域内外の結び付きによる創意工夫にあふれた地域活性化の先駆的優良事例を「食と地域の『絆』づくり」として選定し、全国に発信しています。本プロジェクトは、平成23年度までの取組が評価され、優良事例として選定されました。



片浦地区の農家さんが手間暇かけて生産

片浦みかんプロジェクト

コーディネーター：FM小田原

取組の背景

情報や流通などの発達により、世界においては国境を超えたグローバルな基準が形成されつつありますが、日本の地方都市、とりわけ中小企業や農林水産業では、少子高齢化のなか人口減少や大規模チェーン店等で販売される安価な海外商品との過当競争などによるさまざまな問題が山積しています。これからの私たちは、今後ますます消費や労働人口の減少が顕著になる未来を見据えて、右肩上がり・経済一辺倒の考え方から、今まで以上に「人・物・お金」を地域に循環させながら、持続可能な社会づくりへの発想・業態の転換が求められていると考えます。

活動の狙い

地の中で生かされているという、人間の分度をわきまえながら、天地の恵みに感謝し、四季の彩りに心を和ませ、自然環境とも調和しながら、人と人との絆を大切にしたい豊かな社会づくりを目指しています。

まず「小田原みかんの価値の再構築」を目標に掲げ、年間を通じ農家の方にとって安定した価格で、みかんをはじめとする柑橘類を流通させることを目指します。

また、最終的にはこの地区において、みかん（柑橘類）栽培に携わる人々の自助の力で、栽培～収穫～販売までできる仕組み作りのサポートを目的としています。

実施内容

片浦地域の農家さんが作る、日本一低農薬な片浦レモンを適正価格で買い取り、搾汁してサイダ

ーやお菓子の原材料として出荷しています。また、小田原みかんシリーズとして、みかんサイダーやみかンドロップの販売も行っています。

活動の成果

皆様には趣旨をご理解いただき、片浦みかん&片浦レモンの売れ行きは好調です。お歳暮みかんや片浦レモンサイダーは、毎回生産した分が完売御礼となります。

柑橘類が一年を通して適正価格で売れることにより、片浦地区の農家さんに大変喜んでいただき、作付面積を増やす方もいます。

今後の展望

本プロジェクトは、地域の企業や個人の推譲（ボランティア）によって活動しています。片浦地区の農家さんの支援を目的として活動を開始しましたが、現在その範囲を小田原市・足柄上郡・足柄下郡に広げ、「お歳暮みかん」、「地域振興サイダー」の企画販売を中心に、「農援隊」や「新商品開発プロジェクト」などを展開しています。今後も、地元の農家と商工業者をつなげながら、地域の農商工連携による活性化を推進します。

参考URL

<http://www.odawara-kankitsu.com/>



取組の経過

平成21年12月21日

無尽蔵プロジェクト始動

各推進プロジェクトのコーディネーターの皆さんに集まっていただき、第1回連絡調整会議を開催しました。

冒頭、市長が、プロジェクトの趣旨やプロジェクトへの思いなどを話し、その後、先進事例の発表などがありました。

平成22年3月27日

「小田原スタイルEXPO2010」開催

キックオフイベントとして「小田原スタイルEXPO2010」を開催しました。「小田原スタイル」を浸透させることで、地域経済の活性化につなげていくことを目的とした本イベントでは、当日のFM放送での生放送や、事前のイベントの告知により「小田原スタイル」の発信を行いました。

当日は、各推進テーマの方が、それぞれのテーマに沿ったイベントを開催し、メインMCが紹介しました。

また、市長を含め5名のパネリストが「小田原スタイルってなに？」というテーマでディスカッションを行いました。



小田原スタイルEXPO2010

平成23年10月17日

ロゴマーク作成

イベントや発行物などいろいろな機会をとらえ、無尽蔵プロジェクトの取組が一目でそれと分かるようPRをするために、無尽蔵プロジェクトの共通ロゴマークを作成しました。

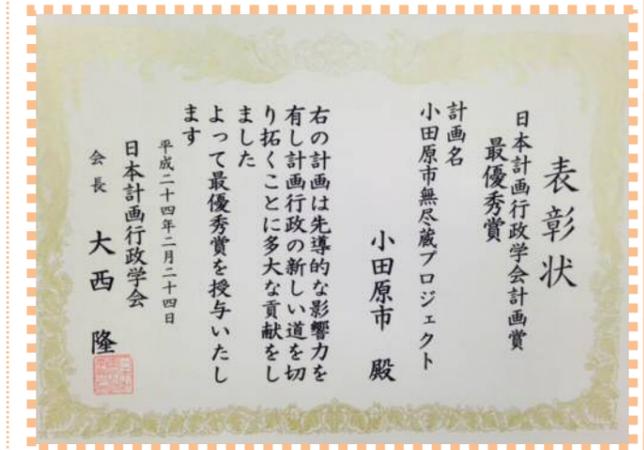
ロゴマークは、無尽蔵プロジェクト「ものづくり・デザイン・アート」のメンバーによるデザインで、小田原の伝統工芸である寄木細工をモチーフにしています。

平成24年2月24日

日本計画行政学会計画賞『最優秀賞』を受賞

日本計画行政学会「第14回計画賞」の最終審査会で、「小田原市無尽蔵プロジェクト」が最優秀賞を受賞しました。

受賞のポイントは、小田原の特徴をうまくとらえている点、着眼点、そしてこの仕組みが他でも導入でき先導的な計画になり得る点で、プロジェクトの企画や仕組み、そして関係する個人や団体の皆様の活動が高く評価されました。



日本計画行政学会計画賞「最優秀賞」表彰状

無尽蔵プロジェクト推進テーマ構成団体等

平成26年11月18日現在

■ウォーキングタウン小田原 (1 団体)

(コーディネーター)	特定非営利活動法人 小田原まちづくり応援団(平井丈夫)
(構成団体)	—
(補佐役)	観光課

■食の小田原 (9 団体)

(コーディネーター)	特定非営利活動法人 子どもと生活文化協会(大谷賢司)
(構成団体)	ぴよぴよクラブ 命を大切に作る小田原を創る会 小田原有機の里づくり協議会 特定非営利活動法人 21世紀の農学校 シンクタンク藤原事務所 MOA小田原センター MOA明るい社会をつくる会 ポタジェ ララ 他
(補佐役)	農政課

■文学のまちづくり (6 団体、1個人)

(コーディネーター)	小田原の文学に光と風を送る会(田中美代子)
(構成団体)	小田原ペンクラブ 特定非営利活動法人 小田原まちづくり応援団 特定非営利活動法人 小田原ガイド協会 特定非営利活動法人 小田原市生涯学習推進員の会 西さがみ文芸愛好会 竹村忠孝
(補佐役)	図書館

■ものづくり・デザイン・アート (8 団体)

(コーディネーター)	一般社団法人 箱根物産連合会(露木清勝)
(構成団体)	一般社団法人 箱根物産連合会(弥生会、雑木囃子) 株式会社 柏木美術鋳物研究所 イパダガラス工房 小田原城ミュージゼ すどう美術館 横浜デザインプロダクション(代表:中村) 小田原箱根商工会議所 神奈川県産業技術センター工芸技術所
(補佐役)	産業政策課

取組の経過

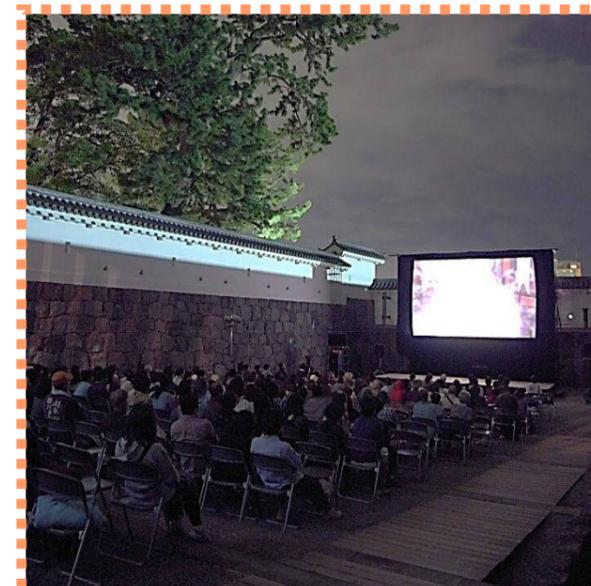
＜小田原映画祭＞

平成15年4月～
活動開始&盛り上がりを見せる

平成15年4月に実行委員会が作られ、10月には「銅門野外上映会」を開催しました。また、平成17年2月に第1回目の映画祭を実施、小田原ゆかりの映画の上映やショートフィルムコンテストなどは当初から継続して行っており、平成21年にNPO法人おだわらシネマトピアを立ち上げて以降は、毎年開催しています。

映画祭は、メインの会場は川東地区のシネコンとしていますが、市内の各所で上映会を開いています。毎回、小田原ゆかりの映画の上映、有名俳優を呼ぶなど集客に努めており、ネームバリューもあがっています。自主財源の確保のため、平成26年度から銅門野外上映会を有料事業としましたが、おそらく日本では唯一の城郭内での映画上映という希少性もあり、集客が落ちることなく運営を行っています。

また、映画の上映ということだけでなく、ショートフィルムコンテストの入賞監督が続々と長編映画を作成、発表しています。こうした人材育成・発掘という面でも大きな成果を残しています。



銅門枳形内での野外上映会

無尽蔵プロジェクト～シネマとライブのまち～

＜小田原城ミュージックストリート＞

平成19年9月～
継続は力・今では県下最大規模

平成19年度の第1回目から回を重ねるごとに評判が伝わり、現在では、神奈川県内有数の規模を誇る音楽イベントとなりました。小田原市民会館大ホールを含め中心市街地の商店街などに10か所以上のステージを設け開催しています。

平成23年～
派生イベント続々誕生

小田原地下街で行っていたダンスの部がその人気から「OUR (Odawara Underground Roots)」という名前で独立開催するようになりました。また、屋内イベントとして若手ロックバンドを主体にした「ロードオブアリーナ」を小田原アリーナで開催するようになりました。

さらに、軽音楽系のイベントが活発に行われるようになったことから、平成26年度には「全国高等学校軽音楽コンテスト」の決勝大会の会場に小田原市民会館が抜擢されました。平成28年度の開催地も小田原市に決定しており、継続的な開催地が小田原市になろうとしています。

商店街等のイベントにも積極的に協力しており、こうした盛り上がりから、この事業を行ってきたボランティアスタッフが中心となり、平成23年には一般社団法人ジャパンミュージックストリートを立ち上げ、ミュージックストリート事業の土台を支えています。



街中が音楽で包まれる、特別な1日

シネマとライブのまち

コーディネーター：NPO法人おだわらシネマトピア

取組の背景

「小田原映画祭（以下映画祭）」は、小田原の知名度アップ、小田原ゆかりの映画上映、フィルムコンテストによる若手映像クリエイターの育成、眠っている写真やムービーの再編集による市民への提供などのために平成17年2月に、「小田原城ミュージックストリート（以下ミュージックストリート）」は、市民演奏家の演奏機会の提供と中心市街地活性化の一助として、平成19年9月に、それぞれ始まりました。

無尽蔵プロジェクトが立ち上がったときには、すでにこれらの事業は恒例のものになりつつあり、「シネマとライブのまち」は、そのような中で生まれています。身近にある文化である「映画」「軽音楽」の分野のイベントを市民主体で行っていることに、大きな意味があると考えています。

活動の狙い

身近な地域で、身近な分野の文化活動により、市民が気軽に文化に触れる機会を提供することで。都市PRという側面もあり、その活動範囲は市域を越えています。

実施内容

映画祭、ミュージックストリートとも、秋に開催しています。それぞれが実行委員会を組織して実施し、相互に協力し合いながらPRを行ったり、映画と生演奏を組み合わせた事業を行ったりしています。

活動の成果

映画祭においてはショートフィルムコンテストへの応募、ミュージックストリートにおいては演奏者の応募は全国から集まるようになっており、毎年その数も増えています。前述したとおり、こ

れらの事業は実行委員会を組織して行っていますが、それが母体となってそれぞれが法人格を持った団体を立ち上げ、映画祭やミュージックストリート以外の活動も行うようになっていきます。

今後の展望

それぞれのイベントを発展させていきたいと思っています。ミュージックストリートにおいては派生イベントも生まれてきており、そうしたのも団体として独立して実施できるような運営上の工夫も考えています。

参考URL

<小田原映画祭>

<http://www.odawara-cinema.com/>



<小田原城ミュージックストリート>

http://blog.livedoor.jp/japan_musicstreet/



■環境（エコ）シティ（16団体）

(コーディネーター)	おだわらスマートシティプロジェクト(鈴木博晶)
(構成団体) 15団体	小田原森のなかま 特定非営利活動法人神奈川育林隊 小田原山盛の会 小田原市森林組合 小田原市外二ヶ市町組合 小田原市漁業協同組合 小田原市BDF連絡協議会 小田原市環境再生プロジェクト 小田原市環境緑化協会 小田原フラワーガーデン友の会 小田原有機の里づくり協議会 小田原生(いき)ごみクラブ 小田原鮮魚店舗商組合 小田原市環境ボランティア協会 特定非営利活動法人mama's hug
(補佐役)	環境政策課

■市民による芸術文化創造（1団体、40個人）

(コーディネーター)	小田原市文化連盟(杉崎宗雲)
(構成団体) 40個人	— 個人40名
(補佐役)	文化政策課

■小田原ならではの住まいづくり（1団体）

(コーディネーター)	一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会県西支部(川村昇)
(構成団体)	—
(補佐役)	建築課

■シネマとライブのまち（2団体）

(コーディネーター)	特定非営利活動法人 おだわらシネマトピア(石塚義孝)
(構成団体)1団体	小田原城ミュージックストリート実行委員会
(補佐役)	文化政策課

■片浦みかんプロジェクト（1団体）

(コーディネーター)	FM小田原(鈴木伸幸)
(構成団体)	—
(補佐役)	企画政策課

◎構成団体計 46団体(企業等を含む)、41個人
※コーディネーター含む

ウォーキングタウン小田原

コーディネーター：NPO法人 小田原まちづくり応援団

取組の背景

これまで必ずしも十分に活用されてこなかった歴史・文化資産をはじめ、自然やなりわいなどの資産を新たな視点で掘り起こし、その価値を市民に再認識していただき、観光資源として継続的に活用する取組の必要性を感じていました。

活動の狙い

小田原ならではの魅力ある資源を訪ねる散策コースやウォーキングに関する情報を広く紹介し、多くの人々に小田原を歩いていただくことによって、地域の活力向上を図ることを目指しました。

実施内容

本事業では、小田原ガイド協会や地場産業事業者との連携により、(1) 邸園やなりわいを軸とした小田原の本物の魅力を掘り起こし、街や店に誘導するスタッフの養成（神奈川県邸園マネージャーを2名育成、観光ガイド育成事業で3名育成）、(2) 五感で味わうまち歩きやイベントの企画運営（邸園所有者が愛好した料理や場所を訪ねるツアープログラムなど）を矢継ぎ早に手がけ、現在も常に新しい視点で見直し続けています。



活動の成果

本事業の拠点施設となっている清閑亭の来館者数が初年度となる平成22年度の約7,000人から、平成23年度が約16,000人、平成24年度が約21,000人、平成25年度が約23,000人と着実に増加しており、小田原の眠れる地域資源に付加価値を付け、地域内外の人びとに提示・共有することに寄与しています。

今後の展望

小田原に蓄積されてきた豊富な資源とその高付加価値化のビジョンについて、観光振興に関わる団体、市民、事業者、行政等の中で広く共有することが課題となっています。

そこで、担い手や地域にとって持続可能な経済資源としていくために、戦略的なマーケティング技術を取り入れ、大きなイベントに頼らず小さな成功体験を積み重ね、その成果を互いに共有することが大切であると考えます。

参考URL

<http://www.machien.net/>



取組の経緯

平成22年度
住まいについてのアンケート

小田原市民または小田原近郊の方々が「木造住宅」をどのように捉えているか、また、「小田原市に住むこと」についてアンケートを実施した。その結果、小田原には温暖な気候や海山の幸、歴史・文化の街として、住みやすさがあり、住みたい魅力があり、木造住宅・木の魅力に十分な関心があることがわかりました。

平成22年度
小田原の木材事情について調査

小田原の木材事情について、小田原林青会の協力を得て、調査しました。小田原の山に建築資材として十分使用できる樹木が、一般住宅に換算して約36,000棟分の蓄積量があること。また、木材の強度試験の結果、国土交通省の強度基準を十分に満たしていることが確認できました。さらに、害虫の被害木でも強度試験の結果、木材の強度には支障がないことを確認しました。

ただし、現状では、小田原市の木材はあまり流通されず、合板等に加工されるものが大部分を占めています。

平成23年度
小田原の近代木造建築物について調査

小田原には比較的暖かく、穏やかな気候を反映して、数多くの政治家・文化人が別荘を構え、そしてその関係者が小田原に住宅を構えました。それらの建物の多くが残されています。そのいくつかについて小田原市建築課の協力を得て、調査した結果、関東大震災から得た教訓に基づきそれなりの対策をとっていたことや、現在は見ることがない「小田原葺き」という屋根形式が室町末期から江戸・明治時代にかけて関東地方に大変広がっていたことがわかりました。

平成24・25年度
小田原産材のバンガロー新設

今まで、あまり交流のなかった小田原市内の設計業界・建設業界・各種職人業界が集まって検討し、小田原の森から木材を切り出し、小田原の施設によって乾燥させ、小田原の業者の設計で、小田原の職人の手によって加工し、小田原市いこいの森にバンガローを5棟建設しました。内外装とも木を表しで使用し、木の良さを全面に出している。何度も検討会を開き、少しでも良いものをみんなの手で作ることを勧めました。虫食い部分もあるが、強度・仕上がりには支障はありません。「小田原ならではの」モデル設計時には木のよさを十分に見せること、構造材や架構をみせること、「清閑亭」のように柱に丸みをもたせて柔らかい雰囲気を出すことに重点を置きました。また、天井は二重天井にし、空気層を設けることで、夏の直射熱を緩和していることが特徴です。



小田原ならではのモデルバンガロー外観



小田原ならではのモデルバンガロー内観(架構)

小田原ならではの住まいづくり

コーディネーター：（一社）神奈川県建築士事務所協会県西支部

取組の背景

小田原市内の山々には広大な山林がありますが、豊かな気候、木材価格の低迷による手入不足などで、虫食いの材が増え、材としての評価が下がってゆくという悪循環にあります。そこで、この眠っている資源を調査し、住宅建材として活用する可能性を研究することとしました。

活動の狙い

このプロジェクトは小田原市の地場産業である小田原の木材を、住宅を中心とした建築物または工作物として、いかに取り入れ、どのように利用していくかを研究し、地場産の木材を使用し、地場の職人が手掛ける住まいづくりを実現することを目的としています。

実施内容

平成22年度に住まいについてのアンケート調査、小田原の木材事情を調査及びセミナーを開催しました。

平成23年度には地場産材の活用を研究するため、大学教授、設計事務所、林業、製材業、各職人団体、行政で構成する県西地域住まいづくり研究会を発足しました。研究会では近代建築物の調査などを実施し、地場産の木材を地元の職人が描ける住まいづくりを実現するための課題抽出、住まいづくりの提案・研究及び講演会を実施しました。

平成24年度からは、おだわら森林・林業・木材産業再生協議会等と連携し、木のいえワーキングチームを発足し、一夜城の外便所やバンガローの建設・検証をおこない小田原産材の実証実験をすると共に、流通の課題、材の認証、補助制度の確立等家づくりの実現に向け研究しています。

取組の成果

調査を進めるに従い、小田原の木材産業及び建設関係の各業界では、後継者不足などの様々な問題を抱え、苦悩していることがわかりました。人を知り、材料を知り、技能を知って将来を考えることがこの「無尽蔵」の役割であったと思っています。

今まで、あまり交流のなかった小田原市内の設計業界・建設業界・各種職人業界により検討したバンガローの完成は、横のつながりを強化するためにも大きな役割を担いました。

今後の展望

バンガローを作った時の検討会を更に発展させ、「木の家ワーキングチーム」として、小田原のモデル住宅のマニュアル作りをすすめています。それに伴い、次第に輪は広がり、大きな組織になろうとしています。小田原の建築職種集団が一体となって、交流していくことが今後の小田原の建築関連業界の発展につながることから、今後も小田原材の活用について取り組んでいきたいと考えています。



参考URL

http://kensei-arch.net/report_taigai/index.html



取組の経過

平成22年6月

清閑亭を拠点とした活動開始

平成17年に国登録有形文化財にも登録され、平成20年に小田原市が取得した清閑亭（旧黒田長成侯爵別邸）の利活用を任せられ、施設の文化的価値を顕彰するとともに、周辺地域（本町・南町・板橋など）のまち歩き拠点施設として本格的に取組がスタートしました。



まちあるきツアーの様子①

平成24年度～

国の制度を活用しながら、官民一体となった取組に
平成24年度からは、関東運輸局や観光庁のモデル事業を連続的に活用し、小田原市観光協会や小田原箱根商工会議所、小田原ガイド協会、まち元気小田原、小田原市などの多様な主体が連携・協働する体制を整え、各種課題解決に向けた検討を行っているところです。



まちあるきツアーの様子②



まちあるきツアーの様子③



まちあるきツアーの様子④

食の小田原

コーディネーター：特定非営利活動法人子どもと生活文化協会（CLCA）

取組の背景

小田原市は温暖な気候と豊かな水資源を生かした農業が豊かに展開されてきた地域です。

健康志向や食材の安全性に対する意識が高まるなか、市民に安全な食材を提供するとともに、地元で生産されたものを地元で消費する地産地消や、農業体験等による食育を推進することで、小田原の食に関する豊かな資源を地域の活性化につなげることが必要であると考えます。

活動の狙い

近年の農業や教育における諸課題について、「食」を通じて改善策を見出すための活動を関係団体が連携して展開し、「食」による地域の人たちのつながりの回復を図ること、また、安全な食品による市民・子どもたちの健康の実現を目指しています。

実施内容

安心安全な小田原の食材と、そこに関わる生産者や消費者の交流が生まれるファーマーズマーケットの開催、土に触れ、作物を育て収穫した野菜を食べることで子どもたちに新しい発見と学びを提供する親子菜園の実施、市内の小学校で実施される農業体験学習を映像として記録し紹介する取組などを進めました。

活動の成果

地域で活動する様々な市民の間にネットワークができ、それぞれの活動や事業展開につなげていくことができました。

また、民間団体が主体となることで、学校や地域の方の生の声を事業に生かすことができ、水稻栽培体験学習を実施した小学校では、地元農家と一緒に稲刈りや収穫したお米を試食するなど、地域での新たな交流が生まれました。

さらに、市内の学校農園等の取材し、映像化したり、親子で農業体験ができるモデル園をつくるなど、民間ならではのアイデアにより幅広い活動が実施されました。

今後の展望

これまで展開してきた活動とネットワークをもとに、さらに小中学校と連携した活動を模索するとともに、新たに地産地消や6次産業化による経済発展、食農教育の推進、地域文化の振興といった視点から新たなファーマーズマーケットのモデル作りに取り組んでいきます。

参考URL

<http://www.clca.jp/link/archive/index.html>



取組の経過

平成22年11月

「文化芸術」始動

市民による芸術文化の創造は、当初の市側との話から、後継者の問題や、子供達への育成普及、市民への鑑賞事業の提供などが課題として挙げられてきました。

後継者問題については、ArtNowや小田原市民文化祭のオープニングでこれまで埋もれがちだった若手アーティストや組織に入らない作家、東京や横浜で活動する作家の参加が促進できました。

平成23年～

小田原市民文化祭オープニング

子どもへの育成普及については、ダイナシティキャニオンで行われた小田原市民文化祭のオープニングで、子どもを対象にしたワークショップを開催し、買い物などで来ていた子ども達に芸術活動に触れる機会を提供することができました。



小田原市民文化祭オープニング テーマは“笑い”

無尽蔵プロジェクト～市民による芸術文化創造～

平成24年10月10日～

まちなかぶらりミュゼ開催

まちなかミュゼでは、普段芸術に触れることのない市民にその機会を提供してきました。



まちなかぶらりミュゼ チラシ

これまでの活動は、市民による芸術文化の創造として、大変有意義であるものと考えますが、費用面や高齢化による後継者問題などは、今後も引き続き対応していくべき課題として残っています。

今後の取組としては、これまでの無尽蔵プロジェクトのメンバーでイベントを行う場合は、上質な作品の展示やコンサートを行うこととし、かつ一般参加の場作りも行っていくことを検討しています。

市民による芸術文化創造

コーディネーター：小田原市文化連盟

取組の背景

市行政に寄せられた文化行政の課題として、文化祭の期間の長さや、マンネリ化の問題、文化祭の告知の方法等を含め、平成22年1月29日に下記活動の狙いのように、課題を市長(行政)よりいただき、共に共有し、それぞれを実行化することとしました。

活動の狙い

無尽蔵プロジェクト・市民による芸術文化の創造は次の目的を持って始まりました。

- ①文化芸術に関わる人材の把握と若手など後継者の人材の育成。
- ②小田原で芸術活動に携わる人による子供達への育成普及。
- ③展示会、音楽会等様々な分野の芸術鑑賞を低料金で行い。その情報発信を行うこと。
- ④小田原市民文化祭の期間の長さの問題の解決と、新たな方式による文化祭の再構築。
- ⑤芸術文化創造センターの建設にあたり、そこで行う文化事業の参加団体をする。
- ⑥芸術文化創造センターの自主企画や担い手育成等

実施内容

- ・文化芸術を身近にする企画として、山月や清閑邸の邸園にて、口笛コンサートやアート展、文化を喰う会を開催しました。
- ・市内店舗の活性化と作家との関わりを創出するため、まちなかミュゼを開催しました。
- ・ArtNow(5回)を通じて作家の参加を促し、延べで70名の作家の参加を実現しました。
- ・子供を対象としたワークショップを積極的に行うことで、芸術の育成普及を図ってきました。
- ・「アートカレンダー」をブログ形式で展開することにより、様々な芸術関係のイベントの周知を行ってきました。

・小田原市民文化祭のオープニング事業を通じて文化祭のあるべき姿をもとめて、期間のことや告知の事、発表会の事を試行及び施行をダイナシティキャニオンや市民会館などで行ってきました。

活動の成果

まちなかミュゼでは街中に芸術があふれることで活性化に寄与し、まちの回遊性の向上に役立ちました。

ArtNowでは天守閣や清閑亭に作品を展示するなど、小田原のまちと芸術の融合を実現させてきました。

小田原市民文化祭のオープニングでは、ダイナシティのキャニオンなどで行うことで、多くの市民に芸術に触れる機会を提供できました。

今後の展望

この活動を継続するために、これまで集まった芸術家による組織化を検討します。

文化祭のオープニングは、更なる周知活動と幅広い分野の市民の参加を促すとともに、上質な音楽系も取り入れることにより、小田原らしい文化芸術フェスを構築化(プラットフォーム)、イベント化していきます。

参考URL

<http://odawara-art-now.blogspot.jp/>



取組の経過

平成21年12月

「未来の食卓」上映会

フランスの小さな村で学校給食をオーガニックに変えていく取組みを記録した映画の上映会と、市長も参加してのシンポジウムを開催しました。会場ロビーでは有機野菜等の販売や小学校の学校農園のパネル展示も。これが食の小田原の事実上のキックオフイベントとなりました。



「食」を語り合ったシンポジウム

平成22年11月

まるしえきんじろう開催

プロジェクトの趣旨に賛同された農業生産者などが30軒ほどが出店する交流市場を開催しました。

無農薬・低農薬の野菜や、地ビール、パン、お菓子、お米自然食品、木工製品などを展示し、手作りの良さを実感してもらい、質のよい健康な暮らしを提案しました。



多くの店が立ち並んだまるしえきんじろう



農・食の交流を生んだ店内

平成24年9月

Yes! Garden開設

子どもや保護者の食育活動の拠点として食育学習菜園を開設しました。

現在、この場所を拠点として、子どもと大人と一緒に、農と食を体験し、自然の恵みや自分と自然との結びつきを学ぶことができる食育菜園教室を開催しています。



久野に開設された「Yes! Garden」



「Yes! Garden」オープニングイベント

文学のまちづくり

コーディネーター：小田原の文学に光と風を送る会

取組の背景

小田原文学館では桜の開花時期にあわせ「観桜会」を開催し、出店、茶席やコンサートなどが企画されてきました。

観光客等が小田原文学館を訪れて桜を楽しんでもらうことだけでなく、小田原文学館を拠点とした独自の情報発信が必要と考えました。

活動の狙い

小田原は、数多くの文学者が居住し創作の舞台ともなったことに光を当て、小田原の文学やそれを培った風土や歴史・文化などについて小田原文学館を拠点に情報発信を行うことにより、「文学のまち・小田原」のイメージを定着させ本市の文化や経済観光の発展に寄与します。

市内の文芸愛好団体等が参加することにより、市民の潜在力を引き出すとともに、団体間の交流を通じて各団体の活動に寄与します。

活動の成果

(1) おだわら文学散歩マップ

市民や観光客に配布することで、「文学のまち・小田原」のイメージを高めることができました。

(2) 西海子サロン

実行委員会委員長の田中美代子氏の文学に関する知識と人脈を生かし、多彩な講師を迎えて小田原の文学者にかかる講演会を開催することができました。

小田原文学館を会場とした文学館カフェやその他の催しについては、実行委員の創意により企画・運営することができました。

各回のテーマに小田原出身やゆかりの文学者を選ぶことにより、これらの文学者の存在を市民や県内外の住民に知ってもらうことができ、リピーターも定着しました。

開催により、小田原文学館の観覧者数の増加に貢献でき、これらの経験を、各団体の活動に役立てて行くことができました。

(3) 柳川市との交流

平成24年11月に柳川観光大使・原達郎氏との結びつきで実現した柳川市訪問にあたり市長の親書を持参し、本市と柳川市との北原白秋にちなむ交流の糸口を付けることができました。

今後の展望

小田原の文学者の顕彰と作品普及については、これからも継続的な取組が必要です。

西海子サロンについては、小田原の文学者についてのテーマ設定も概ね一巡したので、講演会主体の開催の形態から行政と市民の新たな協力関係が築けるような形態に見直しを図ることとします。

特に西海子サロン参加団体間の交流を重視し、交流の中から小田原の文学に関する新たな情報発信の取組が生まれるよう活動を引き継いでいきます。

参考URL

<http://bungakumachidukuri.blogspot.jp/>



取組の経過

平成22年1月～平成23年3月

環境(エコ)シティ推進プロジェクト開始

- 参加団体の活動を見聞し、共通認識を持つための体験ツアーや「水」に関連する施設の見学
- 環境再生・環境改善の仕組みづくり勉強会
- 小田原市低公害車普及促進会議（おだわらエコカープロジェクト）や環境再生プロジェクト主催により勉強会
- 『みんなで創る地域協働のしくみづくり』ワークショップなどを開催しました。



「荒地の再生・活用」実践活動の様子

平成23年11月19、20日

『おだわら環境志民フォーラム』開催

東日本大震災の発生により『環境ネットワークまつり』が中止となりましたが、その後、安全なエネルギーなどをテーマに加え、同年11月19、20日に『おだわら環境志民フォーラム』を開催しました。



おだわら環境志民フォーラム開催

無尽蔵プロジェクト～環境(エコ)シティ～



おだわら環境志民フォーラム チラシ

平成23年11月～

プラットフォーム構築へ準備

あらゆる環境に関する動きをまとめ、環境コミュニティ活動の中間支援機能を持つプラットフォーム型NPOの構築に向けて検討しています。



小田原の環境の将来像について議論



環境(エコ)シティ

コーディネーター：おだわらスマートシティプロジェクト

取組の背景

本市では、多くの市民、多くの団体が、小田原をより素晴らしいまちにしようと、自然環境の再生や街環境の整備に精力的に活躍しています。

しかしながら、お互いの存在や活動を知らなかったり、情報を共有できていないことが少なくなかったため、様々な環境に関する問題を多くの市民が知って、一緒になってその解決策を考え実践していただけるネットワークづくりが必要な状況にありました。

活動の狙い

環境に関する問題の解決策を考え実践していくため、環境を良くしようとの意思を持つ、市民団体、企業、行政、地域団体、研究者などを『志民』と表現し、そのネットワークづくりを進めていくことを目的とします。

その連携の輪の中で、多くの方々が集い、知り合い、つながって、うるおう循環都市をつくっていただければと考えています。

実施内容

10のテーマの中で最も多い16団体が加盟し、対象分野も多岐にわたっています。

「環境(エコ)シティ会議」を毎月開催し、各分野の活動フィールドにおける現地見学会や勉強会を行い、情報共有と活発な議論を展開してきました。

活動の成果

小田原の優れた自然環境を守り育て、活用するため、環境の全体像を把握し、課題をまとめる等の活動を行い、次のような成果をあげました。

・環境に関わる団体の活動を地図で紹介した「おだわらグリーンマップ」を発刊。

・平成23年11月19、20日「おだわら環境志民フォーラム」を開催。

小田原の環境活動に携わる市民・団体・事業所などが、活動状況や商品・製作物などを展示したほか、森里海連環の維持強化、安全なエネルギーなどをテーマにし、全国区で活躍されている実践者や学識経験者などをお招きして講演やシンポジウムを2日間にわたり開催。

・さまざまな環境課題に取り組むためには、市民をはじめ環境活動団体や地域活動団体が課題を共有し、つながりを築く必要があると考え、環境分野のネットワークのハブとなる環境プラットフォームの構築を目指すこととしました。

今後の展望

環境志民フォーラム開催を契機に、森里海連環や自然エネルギーなど各環境分野において、市民が主体となった取組の前進を図ります。

さらにこれまでばらばらに活動していた環境団体が、環境に関する課題を共有することを通じてネットワーク化を促進し、環境活動のプラットフォームを形成していきます。

参考URL

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/environment_project/



取組の経過

平成22年1月29日

文学のまちづくりキックオフ

キックオフイベントとして、文学講演会「明るい方へ」を開催。講師として太田治子先生をお招きしました。

平成22年度・23年度

おだわら文学散歩マップの作成

平成22年度・23年度にわたり、白秋童謡の散歩道や文学者にかかる旧跡などを地図に表示し、それらを巡る文学散歩のコースを設定して観光客等に活用してもらえるよう作成しました



おだわら文学散歩マップ

平成23年10月23日～

西海子サロンの定期的な開催

平成23年10月23日の第1回西海子サロンから、のべ7回にわたって開催しました。(年2回)

毎回、異なる小田原の文学者をテーマに取り上げた講演会、文学館カフェ、文学作品の朗読や白秋童謡のコーラスや文学散歩など、楽しくまた文学作品に親しみを感じることができる行事となりました。



第1回西海子サロン山根基世さんと高橋一清さんの対談



第2回西海子サロン(湘南白秋まつり) 白秋シンポジウム



平成24年11月2日 柳川市訪問
小田原市長親書贈呈式(中央は金子柳川市長)

ものづくり・デザイン・アート

コーディネーター：一般社団法人 箱根物産連合会

取組の背景

小田原には厚く蓄積された歴史・文化、多彩な地域資源、立地や交通条件などの恵まれた環境などがあることから、すぐれた伝統工芸品が作られてきました。しかしながら、モノがあふれる時代となり、これまでと同じことをしてはモノが売れなくなる時代に入りました。

活動の狙い

小田原の地域資源を存分に生かしつつ、これまで結びつきの難しかったものづくり産業（伝統工芸）とデザイン・アートとが交流を進めることで、新しい創造を生み出し、小田原製品のブランド力を向上させ、地域経済を活性化させることを目的としています。

実施内容

ものづくり産業とアーティストとが交流を促進し、コラボ展示を開催します。また、小田原のものづくりについて多くの人に知ってもらうため、製作体験教室を実施します。



平成25年9月 第8回小田原もあ展

—三次元の蟻は垣根を越えるVol.2—(寄木ギャラリーツユキ)

活動の成果

当初の展示会は、それぞれが作っているものを一緒に展示するというものでしたが、小田原のものづくり産業のなかでの交流、ものづくり産業とアーティストとの間での交流を進めることで、これまでにない新しい作品にチャレンジしたり、コラボ作品を製作したりするようになりました。また、夏休みには大人から子どもまでを対象とした製作体験教室を実施しましたが、これまでになかった新しい体験を実施し、体験メニュー数も増えました

今後の展望

メンバーそれぞれに各々の活動がありますが、ものづくり・デザイン・アートにおける活動については、新しいものを作り、製作の幅を広げていく挑戦の場となるよう、これからもメンバー間、アーティストとの交流を促進し、新しいことにチャレンジしていきたいと思えます。

参考URL

<http://monodukuridezainart.blogspot.com/>



取組の経過

平成22年3月

ものづくりデザインアート始動

第1回プロジェクト会合にて、次代を担う作家や美術館と、ものづくり産業との交流がスタートしました。

平成22年11月

第1回小田原もあ展開催

小田原もあ～こつこつクリエイト～として、第1回小田原もあ展を開催しました。メンバーの各工房・ギャラリーで展示会(仕事場探検)を開催するとともに、小田原駅の「小田原の物産展示コーナー」で特別展を開催しました。

平成23年6月～平成23年11月

“ために垣根を越えてみる”小田原もあ展開催

銀座商店街のギャラリー、空き店舗、店先で、現代アートと伝統工芸品とを同空間で展示する展示会、製作体験教室、端材を使った市民参加型アートの製作を行ったり、小田原城ミュージアムで西湘地区アーティストインレジデンスと併催して、世界中のアーティストの制作風景と伝統工芸とを同時に披露、製作体験を行ったりしました。



平成24年10月 第6回小田原もあ展

—三次元の蟻は垣根をこえる—(すどう美術館)

平成24年3月～

活発な活動の継続

平成24年3月から開始した小田原城ミュージアムの常設展示では、作品の展示とともに、毎回テーマを決めて、自分たちのものづくりを知ってもらうための紹介パネルなどを作成し、年2回展示の入替を行いました。

また、毎年8月には小田原城ミュージアムで製作体験教室「夏休み小田原ものづくり体験ウィーク」を、秋には、その年ごとに会場を変えて(すどう美術館、寄木ギャラリーツユキ)、アートとのコラボ展示「三次元の蟻は垣根を越える」を開催しました。回を重ねる毎に、体験教室はメニューのバリエーションも参加者も増えています。またアートとのコラボ展示は参加者間の交流を促進し、作品製作のコラボへと深化しています。



平成26年8月 第9回小田原もあ展



常設展示(小田原城ミュージアム)